

---

# 生きる

蟻

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

生きる

### 【著者名】

Z4272Z

### 【作者名】

蟻

### 【あらすじ】

楽しそうだったので、投稿してみました。

土道を進む蟻を軽く踏みつける。

もがき痙攣したような動作を繰り返す蟻に、仲間が駆けつける。  
もし僕が蟻ならば、光栄にも蟻の仲間に入られるのであれば、僕  
はこう言うだろう。

誰も僕に構うな。放つておけ。この痛みを受け入れたり、理不尽  
を感じ僕意外のすべてに悪意を向けることが出来るのは僕だけだ。  
助けなんか必要ない。ひとりにしろ。僕に同情なんかするな。

こう言つ。そう、こう言つだろう。僕はクロオオアリなんだ。自  
分のことをしる。僕が死んでから運べ。食事なんか自分で取られる。  
消える。消えてくれ。ほうら見ろ。身体機能の何割も破壊されたつ  
て歩いていけるんだ。僕はこういう風になりたい。強くなりたい。  
叶うならばワーカーになつて土を掘り、女王蟻や幼虫やさなぎの面  
倒を見て、餌を取り、運び、巣へと持ち帰るような、そんな風にな  
りたい。この蟻はもう終わりだけど、きっと苦しみより幸福をたく  
さん感じたはずだ。不幸であつたはずがない。こうして僕に軽く靴  
裏で踏まれ、体液を漏らし、内臓を破壊され、しかし倒れることな  
くもがき苦しむ、この命の輝きをこうして僕に見せつけることが出  
来たんだ。これこそが幸せであるはずなんだ。未だかつて人がこの  
ようにまで尊く、神々しく生きたためしがあるだろうか。無い。そ  
うだ、無いんだ。息だって腹の穴が塞がりかけて満足に出来や  
しない。仲間の蟻に引っ張られるのみだ。邪魔をしないでくれ。一  
つの栄光を、可能性を、つまらないものに邪魔されるなんて、潰え  
されられるなんて

そうして僕はふいな息苦しさを感じ、瞼の内の暗さを感じた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4272n/>

---

生きる

2010年10月9日13時09分発行